

令和5年度
愛媛県議会国際交流促進議員連盟
報告書
(韓国)

令和6年1月21日(日)～24日(水)

目 次

| | | |
|---|------|---|
| 1 | 派遣期間 | 1 |
| 2 | 日 程 | 1 |
| 3 | 参加会員 | 2 |
| 4 | 結果報告 | 3 |

1 派遣期間

令和6年1月21日（日）～1月24日（水）までの4日間

2 日程

| | 月 日 | 地 名 | 時 刻 | スケジュール |
|---|-------------|----------|-------|--------------------|
| 1 | 1/21 (日) | 松山 釜山 | 17:40 | 松山空港 発 |
| | | | 18:55 | 金海国際空港 着 |
| | | | | 釜山 泊 |
| 2 | 1/22 (月) | | 10:00 | (1) エアプサン 表敬訪問 |
| | | | 13:00 | (2) 釜山広域市観光協会 意見交換 |
| | | | 15:00 | (3) 釜山広域市議会 表敬訪問 |
| | | | | 釜山 泊 |
| 3 | 1/23 (火) | ソウル | 14:00 | (4) チェジュ航空 表敬訪問 |
| | | | 16:00 | (5) クレアソウル事務所 意見交換 |
| | | | | ソウル 泊 |
| 4 | 1/24 (水) | 松山 | 13:05 | 仁川新国際空港 発 |
| | | | 14:40 | 松山空港 着 |
| | | | | — |

3 参加会員

| | 役 職 | 氏 名 |
|----|------|---------|
| 1 | 副会長 | 西 原 進 平 |
| 2 | 〃 | 渡 部 浩 |
| 3 | 〃 | 鈴 木 俊 広 |
| 4 | 〃 | 西 田 洋 一 |
| 5 | 事務局長 | 松 下 行 吉 |
| 6 | 理 事 | 高 橋 英 行 |
| 7 | 監 事 | 松 尾 和 久 |
| 8 | 会 員 | 越 智 忍 |
| 9 | 〃 | 笹 岡 博 之 |
| 10 | 〃 | 木 村 誉 |
| 11 | 〃 | 大 西 誠 |
| 12 | 〃 | 大 石 豪 |
| 13 | 〃 | 帽 子 大 輔 |
| 14 | 〃 | 川 本 健 太 |
| 15 | 〃 | 中 田 晃太郎 |
| 16 | 〃 | 井 川 剛 |
| 17 | 〃 | 永 易 英 寿 |
| 18 | 〃 | 乗 松 幸 子 |
| 19 | 〃 | 小 島 源 |
| 20 | 〃 | 村 上 信太郎 |

4 結果報告

(1) エアプサン 表敬訪問

【文責：松尾 和久】

今回の韓国視察において、2023年11月10日から松山—釜山線を就航したエアプサンへ訪問し、新規就航のお礼と、今後の両国での取り組みなどについて、意見交換できたことは、大変意義深いものでありました。

まず、エアプサンは2007年8月に設立され、現在、29路線（国内3路線、海外26路線）を運行し、11カ国・地域との定期運行路線を有しています。また、日本との定期路線は仁川空港、釜山空港から新千歳、成田、関西、福岡へそれぞれ運行し、加えてこの度、松山空港を加えた9路線となっています。

売上高は2022年で449億円あり、2023年の第2四半期は過去最高の営業益を記録しているところです。

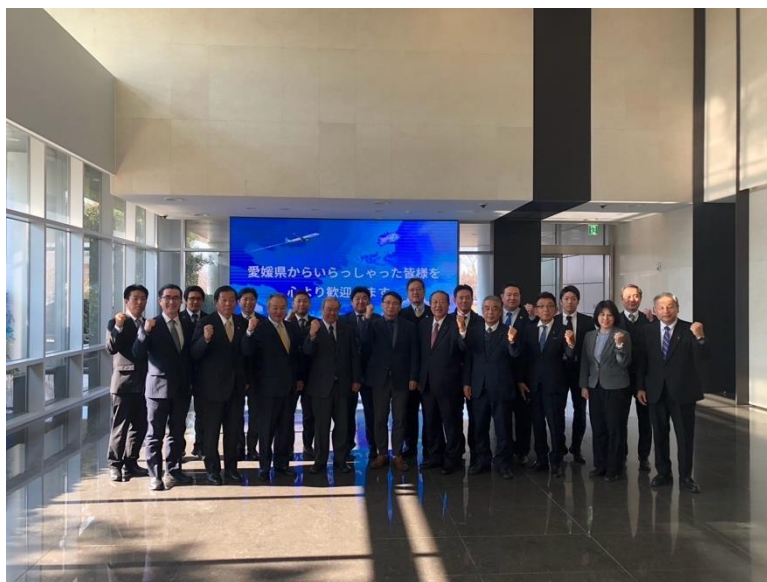
今回の松山空港への就航は中国・四国地方においての地方空港では初めての就航となり、私たち愛媛県にとっては、その安定就航による経済効果に期待をしています。

昨年11月に就航した釜山線の経済効果は年間約15.7億円と試算されています。内訳としては経済波及効果のうち、直接効果が9.51億円、間接効果が5.03億円、便益効果が1.19億円となっています。

今回の意見交換には、エアプサンのマ・ホジン営業本部長はじめ、国際営業チーム

長、営業企画チーム長など各分野の責任者の方も同席いただき、大変有意義な意見交換ができました。

まず、マ・ホジン営業本部長からは松山へ訪問した際に、多くのゴルフ場も空港から近い場所にあり、道後温泉など観光資源もあり、大変魅力的な都市だと感じたとの感想をいただきました。また、同行された旅行会社の皆さんも大変興味を持っていただき、好感を持たれていたそうです。



エアプサンとしても、松山路線は今後、継続していきたい路線であるとの意見表明もあり、今後の更なる交流に期待を持ったところです。

また、和やかな雰囲気の中で行われました意見交換では、プラス面だけではなく、要望などもいただきました。

松山路線は愛媛県から支援もあり、順調に進んでいるところではありますが、福岡空港などと比べてもグランドハンドリング料が2、3倍高いとのご指摘や、搭乗客が手続きや荷物を預ける際に多く並んでしまうことについて、今後の改善を求められました。

また、出国審査が終わった後の免税店の充実も図られれば、さらに搭乗客の満足度も上がるのではないかとのご指摘もいただきました。

現在の松山-釜山の搭乗率は8割～9割と好調ではあるが、利用割合は日本人が1割、韓国人が9割となっており、年間を通した安定運行のためには、アウトバウンド需要を高めることが重要であり、愛媛において釜山の魅力発信をして、利用促進を図ってもらいたい旨の意見も頂戴いたしました。

今回の訪問を機に、今後の安定就航、増便を目指して、愛媛県のみならず四国、ひいては中国地方でも認知度を上げていく必要性を感じた。そうすることによって松山空港からの利用促進を図ることができれば、愛媛県への経済効果もさらに期待できるものと思います。

今回訪問した議員連盟のメンバーでも、今後、情報発信を行いながら、県の取り組む事業効果を最大限に生かせるよう推進していきたいと思います。

(2) 釜山広域市観光協会 意見交換

【文責：帽子 大輔】

ソウルに到着し、釜山広域市観光協会を訪問しました。釜山広域観光協会は、釜山広域市の中心地で、釜山トラベルラウンジの3階にあり、旅行会社を主とした、ホテル飲食店などの865社で設立されていました。

釜山広域市は、人口340万人、韓国第2の都市であり、周辺の地域を合わせると約780万人という大きな商圏を形成しています。1876年に釜山港として開港以来、物流のハブとして発展しており、観光においても釜山国際映画祭（10月）、釜山花火大会などの全国的なお祭りが開催されているほか、弓形のビーチラインに高級ホテルが並ぶビーチリゾート海雲台（ヘウンデ）や、魚介類の専門市場として韓国一の規模であるチャガルチ市場が有名であります。会長のイ・テソプ氏は観光地にレストランを経営する実業家であり、観光協会会長を第23代、24代、26代（現職）と歴任している釜山広域市の観光産業の第一人者でもあります。

まず、訪問に先立ち西原副会長のご挨拶があり、2012年に愛媛県日韓交流友好促進議員連盟で訪問した過去の歴史と、四国4県でのPRの必要性について認識していたものの、松山-釜山の直行便がなかったが、今回の就航を機にさらに交流を深めていきたい旨が述べられました。次にイ・テソプ会長からご挨拶があり、観光協会設立以来、最大となる25人の訪問者に心からの歓迎の言葉を頂き、その後、意見交換となりました。

主な内容としては

- ・1963年に設立した観光協会は、昨年、60周年を迎え、1966年の福岡観光コンベンションビューロ（旧福岡市観光協会）をはじめ、長崎、鹿児島、大阪、名古屋、下関と協定を結んでおり、2023年に愛媛県が結んだ協定で、7つの友好協定がある。
- ・愛媛県のイメージとして、書道やみかんのイメージがある。
- ・四国の知名度は低いが、今までは直行便がなかったからではないか。
- ・2023年11月の愛媛県訪問時、出国カウンターが狭く、1時間遅れで離陸することになったが、空港の受け入れ体制を強化する必要があるのではないか。
- ・訪問先のトレンドに変化があり、5-6年前は中国だったが、現在は、日本である。日本と韓国の距離が近いことが、コロナ後に加速している要因ではないか。

- ・今後の交流のあり方については、観光関連の関係者が持続的に交流する必要があり、釜山市に説明に来ることも有効である。それぞれの行政の支援を頂きながら、お互いに交流人口を増やすべきである。
- ・釜山は医療機関が集積している「西面メディカルストリート」があるほか、ドラマや映画の撮影地、キムチ作りの体験ができるところがある。

カン・ソクハン副会長からは

- ・訪問団のスケジュールを見たが、観光スケジュールが入っていないのが残念である。ぜひ、次回は観光をしてもらいたいと思っている。
- ・釜山では、大阪の隣である和歌山の認知度が上がっているが、愛媛県が中心となって、韓国のメディアを呼んで発信する必要がある。
- ・航空路線がつながると交流が深くなる。最近の旅行形態がFIT（個人旅行）が多く、韓国の大手旅行会社への商品づくりのアプローチも重要である。

との意見を頂きました。

また、アフターコロナにおける観光の課題として、人手不足が深刻であり、ビザの緩和などの外国人労働者の受け入れ体制強化を政府に要請している状況も語られました。韓国の人口は現在、5,156万人だが、首都圏（ソウル近郊）人口は2,601万人と日本以上に一極集中が課題であり、人手不足は人口第二の都市である釜山広域市の観光業界においても、重要課題であることが認識できました。外国人労働者の確保は、これから韓国も含め国際競争に晒される現実があり、現在の日本の円安は、インバウンドにとっては追い風だが、外国人労働者の確保という観点からは不利な状況もあり、国と一丸となってこの問題に地方も取り組んでいかなければならないと感じました。

結びに、釜山広域市観光協会の皆様は、非常に日本・愛媛のマーケットに好感を抱いていると同時に、今まで以上の経済・観光・文化交流の必要性を認識していました。愛媛県民の国際交流促進をどのように進めるかという政策の追求と、そのためにストレスフリーな入出国手続き、空港の環境整備、滞在中の快適性の確保を行い、リピート率の高い相互の関係人口の創出が必要であることがわかりました。

(3) 釜山広域市議会 表敬訪問

【文責：帽子 大輔】

釜山広域市観光協会を訪問後、釜山広域市の中心地にある釜山広域市議会に訪れました。議会ではアン・ソンミン議長をはじめ、運営委員会、行政文化委員会、建設交通委員会の関係議員の皆様も同席していただき、大きな歓迎を受けました。アン・ソンミン議長からは、極東アジアにある中国・韓国・日本の歴史背景を含め3か国の平和と、今よりも質の高い暮らしを望んでおり、お互いを尊重し合えば、平和は必ず成り立つと考えており、愛媛県の議員との出会いは大変意義深いと考えているとのご挨拶があり、その後、意見交換となりました。

主な内容としては

- ・韓国人が訪れているのは九州である。近年では、福岡とその周辺、鹿児島までも行っているように聞いている。
- ・週3便の航空路線の開設を踏まえ、これからますます、愛媛を訪問する機会が増えると感じている。
- ・釜山市民はどの国よりも、日本に行きたがっている。新しい都市に出掛けてみたいという願望が強い地域性である。釜山市民が愛媛に旅行を始めたら、韓国国民も愛媛へ旅行すると思っている。
- ・提案として地域のメディアに愛媛のPRをしたらいいと思う。行政文化委員会で、愛媛のPRをフォローすることができる。

との意見を頂きました。

また、釜山の歴史として、戦争を経験し、都市機能の移転があり、その時に全国から釜山に人が集まったことにより、韓国全土の料理や北朝鮮の味を味わえる場所となっており、魅力的で誰もが楽しめる都市が釜山であるとのことでした。今回の訪問に際し、今後の窓口である行政文化、建設交通の委員長も同席していただくなど、これからの議員外交も重要になってくると感じています。民間の国際交流の架け橋として、議連が役割をしっかりと果たすとともに、メディアでのPRなど、人脈を活かした交流を継続していく必要性を感じました。

(4) チェジュ航空 表敬訪問

【文責：乗松 幸子】

ソウルでは、本年最も低い気温（-14℃）を観測した23日、チェジュ航空を表敬訪問させていただきました。貴社は2005年に創立した韓国発のLCCです。売上高6,956億ウォン（約695億円）（2022年）とLCCではトップの収益を上げています。10都市14路線（2023年）の日韓経路があり、松山市へは仁川線に路線を設けています。松山-ソウル線の運航は平成29年に開始し、3年間のコロナ運休期間を経て令和5年3月から5往復、同年10月から週7往復に増便されました。年間約32.7億円の経済効果があり、うちソウル線利用者の消費に伴う経済波及効果は23.4億円、直行便を利用することで愛媛県民が得られる便益効果は9.29億円と試算されています。令和5年度の松山-ソウル線の利用状況は搭乗率80%前後を維持し安定した就航を保っていますが、運航再開後の日本人搭乗率は約3割と少なく今後の安定運航のためにも日本人比率の増加が望まれます。県による利用促進事業として、グラハン事業者に対し他空港からの応援職員の派遣等に係る費用の支援や、集客イベントの実施（韓国ミュージカルや韓国映画祭等）、空港駐車場や、パスポート取得費用等の各種補助を行っています。

本社表敬訪問に際し、代表取締役の金二培氏（キム・イベ氏）含む8名のチェジュ航空関係者との意見交換を行いました。金氏から、ソウル-松山路線はチェジュ航空にとって初の地



方都市路線であることや、週7往復で安定的な運航状況にあり、今後も変わらない支援をお願いしたいとの話がありました。西原副会長から、チェジュ航空によるソウル-松山便の尽力に対する謝辞を述べられました。

本年1月以降の予約状況も良好であり、HPやSNS、県の補助金等を利用して販促物を作成しプロモーションを行っているとの説明がありました。2024年の運営目標は、現在の路線を安定的に維持しつつ、運営拡大するため、新しい松山旅行の提案（20代～30代）、メイン層の強化（リピーターを増やす）、日本アウトバウンド拡大が、安定化のために必要です。



質疑応答では、韓国からゴルフで来県する方が多いが、本県のゴルフ場の印象はどうかとの質問に対して、愛媛には非常によいゴルフ場があると聞いており、ゴルフインフラに関する情報を収集しパッケージとして取り組む計画であるとの回答がありました。今後の戦略として、一度、松

山を訪れた人をリピーターにするための商品として、ゴルフのメニューを考えている。

また、旅行者の多様化で団体客だけではなく、個人旅行者が増えているかとの質問に対して、昨今は団体より個人旅行者が増えているため、温泉だけではなく、サイクリングやゴルフといったアクティビティの強化を図るとの話がありました。さらに、最近の若者は、人が多く騒々しい東京・大阪のような大都市よりも、静かな地方都市を好む傾向があり、松山や大洲、内子などは日本文化を感じられる小都市としてちょうどよいとのことでした。

課題としては、松山から他の地方都市への交通手段不足が挙げられました。また、修学旅行や企業の団体訪問を推進してほしいとの話もありました。デイリー便となったソウル-松山便を今後も維持していくために、松山空港の整備によってより一層利便性を図るとともに、積極的なプロモーション活動によって、韓国を訪れる日本人をさらに増やす努力が必要です。

(5) クレア（自治体国際化協会）ソウル事務所 意見交換

【文責：高橋 英行】

氷点下 10 度を下回る韓国視察最後の地は、ソウル特別市鍾路区内にある「一般財団法人自治体国際化協会（略称：CLAIR/クリア）」のソウル事務所に訪問しました。

クリアは、地域における国際化を推進するための地方公共団体の共同組織として昭和 63 年に東京で設立され、ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、北京、シドニーの 7 事務所にて、JET プログラム（国際交流員・語学指導助手の招致）、多文化共生、経済交流、国際協力、自治体間交流、各種情報発信等の事業により、地元産品販路拡大のための情報収集、海外訪問先へのアテンドや現地展示会・ブース出展等のイベント支援など、自治体等の海外活動を支援しています。ソウル事務所は平成 5 年に開設され、愛媛県を含む 6 自治体（鳥取・島根・宮崎・鹿児島・長崎）と総務省から 7 名が派遣され、韓国人スタッフ合わせて 10 名で業務を行っています。

西原副会長からの挨拶の後、小谷典正所長（鳥取県）からは、クリアとソウル事務所の概要、愛媛県を始めとするイベント（国際観光展・トラベルショー・おまつり等）での自治体観光 PR、大学等への出前講座（8 校）、自治体の活動支援と依頼調査、韓国政府とユン・ソンニョル大統領の概要、消費者物価指数、日韓の航空路と路線再開状況、訪日韓国人数の推移、日韓の自治体間交流等の説明がありました。

意見交換では、愛媛県のインバウンド対策として、ショートステイのリピート率向上等が挙げられましたが、定期直行便はコロナ前の 26 都道府県から 22 都道府県、愛媛県と同じ 2 社以上就航は 8 都道府県、訪日韓国人数は 125%（2018 ピーク対比 92%）まで回復し、姉妹友好都市数は 169 に増加しており、韓国との友好親善を始め、イン・アウトバウンド等による経済の活性化促進と観光振興の取組みが重要だと認識しました。